

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

論題(和文)	巻頭言 専門日本語教育の領域
著者(和文)	仁科喜久子
出典(和文)	専門日本語教育研究, , No. 12,
発行日 / Pub. date	2010, 12
URL	<a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jtje/12/0/12_0_1/_pdf">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jtje/12/0/12_0_1/_pdf</a>
Note	当論文は出版社版です。論文をJ-STAGEにて併載いたします。

巻 頭 言

## 専門日本語教育の領域

専門日本語教育学会長

仁科 喜久子

東京工業大学・留学生センター 教授

「専門日本語教育学会」も12年目に入り、周辺をめまぐるしい変化とともに、新しい展開に入りつつあります。事務局幹事の尽力で本誌をJ-Stage電子ジャーナルに掲載する申請をしたところ、必要な条件を満たしているという審査結果の通知があり、間もなく公開されることになりました。公開後は、創刊号からのバックナンバーが広く多くの方々に読んでいただけるようになります。「電子化とWeb公開により、国内外への学会からの発信を強化する」とあります([http://info.jstage.jst.go.jp/data/answer/info/dai\\_1syou.pdf](http://info.jstage.jst.go.jp/data/answer/info/dai_1syou.pdf))。J-STAGE掲載についての審査では、査読審査がしっかりとされていること、投稿は国内外から広く受けていることなどが評価されたようです。

本学会は創刊当初から海外での専門日本語教育活動支援を一つの柱と考えてきました。本誌が創刊されたバブル崩壊後の世紀末には海外の日本語学習熱は下降していましたが、本誌には海外からの活動報告や教授法の研究や報告が数多く掲載されてきました。もちろん、国内からも、専門語分析のような言語の基礎的分析から作文指導方法のような実践・応用研究に至るまで、幅広い研究成果が寄せられています。これらの記事や論考は理工系研究者の執筆したのも多く、学際的な意見交換の場となってきたことも本誌の特徴の一つと言えます。理系・文系を問わず、また、教育界の範囲を超えて、できるだけ多くの専門家の協力を得て、それぞれの専門分野において日本語を必要とする学生への支援方法を編み出すことを目指してきました。

本誌創刊から10年余を経過した今日の日本語教育の現状を見ますと、この数年、日本語教育学会傘下の研究グループであるAJGをはじめとするアカデミックジャパニーズ研究活動、種々のビジネス日本語教育研究活動など、特定の目的のための日本語教育の研究が活発化しています。前者は大学などで学ぶ留学生のための読み書きを中心にした教育、後者は企業などで働く希望のある学習者の実践的能力養成のための教育への支援を、それぞれ目指しているようです。これらの諸活動組織の目的と本学会のそれには重なるところが多々あるのですが、本学会独自の役割もあります。それは、名前の通り、「専門の分野での活動を可能にするレベルまでの教育」の方法を模索することです。

今回は本学会の独自性を改めて確認したいという意図もあり、法学者、特許事務所弁理士、企業における製品カタログ作成者、言語学専門家の方々に特集論文の執筆をお願いいたしました。

